ホンダ F800

取扱説明書

お買いあげありがとうございました。
お買いあげいただきましたF800をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました

お買いあげいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店または下記の**〈ご相談窓口〉**にお気軽にお申しつけください。

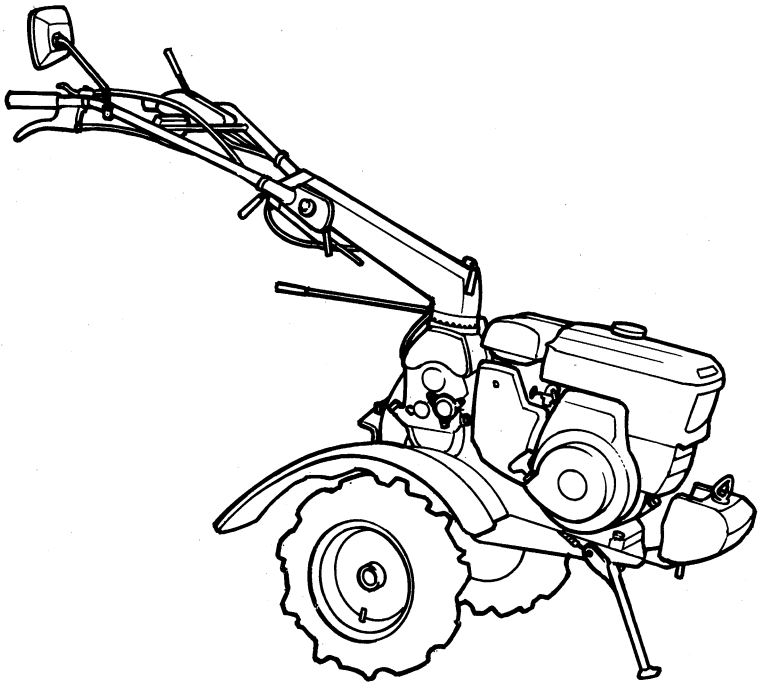
〈ご　相　談　窓　口〉

名　　称	電話番号	郵便番号	所　在　地
本田技研工業株式会社 お客様相談室	03 (423) 4211	107	東京都港区南青山2—1—1
本田技研工業株式会社 お客様相談室　北海道	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町２条10—2—29
本田技研工業株式会社 お客様相談室　仙　台	022(288)6561	983	宮城県仙台市六丁の目西町1—10
本田技研工業株式会社 お客様相談室　名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通4—22
本田技研工業株式会社 お客様相談室　大　阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町2—12
本田技研工業株式会社 お客様相談室　九　州	092(962)2466	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

・所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

ホンダF800は、取扱いに優れ最も汎用性に富んだティラーです。安全、快適にお使いいただくために正しい取扱いをしなければなりません。ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などにより写真、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。



目　次

安全にお使いいただくために　これだけはぜひ守りましょう …… 4

各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 12

スイッチ ツマミ …… 14
エンジン キル スイッチ …… 14
エンジン回転調整レバー …… 14
主クラッチ レバー …… 15
変速レバー …… 16
操向クラッチ レバー …… 17
始動グリップ …… 17
チョーク ツマミ …… 18
動力取出軸 …… 18
ヒッチ ボックス(作業機取付部) …… 19
車輪取付ピン …… 19
ハンドル高さ調整レバー …… 20
ハンドル固定レバー …… 20
前照灯スイッチ …… 23
警音ボタン …… 23
前部おもり（フロント ウエイト） …… 24
車輪おもり（ホイール ウエイト） …… 24
駐車ブレーキ レバー …… 25
スタンド レバー …… 25

エンジンをかける前に点検しましょう …… 26

ガソリンの点検 …… 26
エンジン オイルの点検 …… 27
空気清浄器（エア クリーナ）オイルの点検 …… 28
変速機オイルの点検 …… 29
タイヤ空気圧の点検 …… 30

エンジンのかけかた …… 31

運転操作のしかた …… 34

1.変速レバー…… 34
2.主クラッチ レバー …… 35
3.エンジン回転調整レバー…… 35
4.操向クラッチ レバー …… 36
5.動力取出軸の使いかた…… 37
エンジンのとめかた …… 38

定期手入れを行ないましょう…… 40

日常点検…… 40
定期点検…… 41
やさしい点検・整備 …… 42

携帯工具…… 42
エンジン オイルの交換 …… 43
変速機オイルの交換…… 44
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃…… 45
点火プラグの清掃、調整…… 46
燃料ろ過カップの …… 47
エンジン回転調整ワイヤの調整 …… 48
主クラッチ ワイヤの調整…… 49
操向クラッチ ワイヤの調整…… 50
駐車ブレーキ ワイヤの調整…… 51
ベルトの調整…… 52
前照灯バルブの交換…… 53
長期間使用しない時の手入れ …… 54

別売部品…… 55

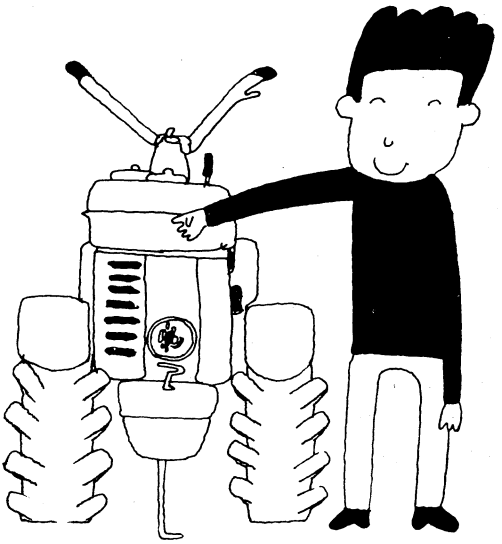
故障のときは …… 57

主要諸元 …… 58

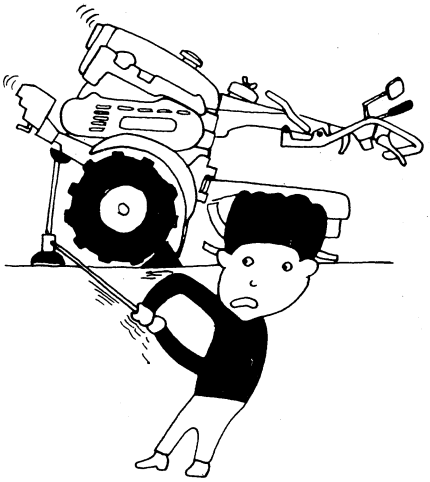
安全にお使いいただくために

これだけはぜひ守りましょう

耕うん機・ティラーは正しく取扱って下さい。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な農作業のために次のことを必ずお守りください。



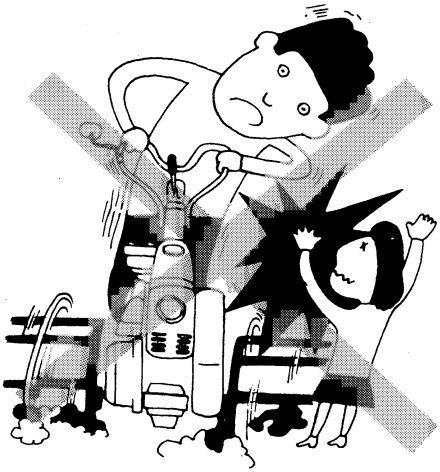
● 安全のために知っておきたいこと



★日常の整備・点検を忘れずに。
（作業機を上げて点検する場合は、必ず落下防止を行なってください）

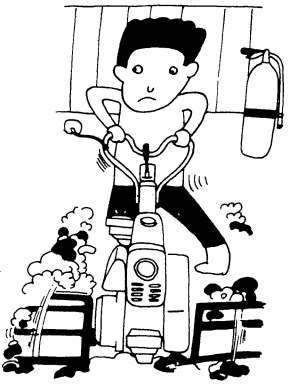
★工具を適切に管理し、正しく使用する。

★子供を乗せたり、近寄らせない。



★衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する（道路走行など、必要なときは、保護帽を着用してください）

★火災の恐れがある場所での作業は、十分に注意し、消火器など火災予防の措置を講ずる。



● 作業を始める前に

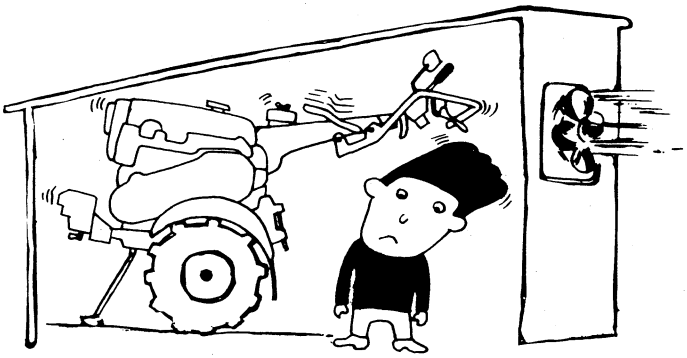
★必ず点検・整備を行なう。

機械の点検整備

●点検作業は、交通の危険がなく、平坦で安全な場所で行なう。

●装着する作業機に合わせて、おもり（ウエイト）などによって適正なバランスを保つ。

●屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は、換気に十分注意する。



防護装置の保全

●防護装置は正しく装着されているかどうか。

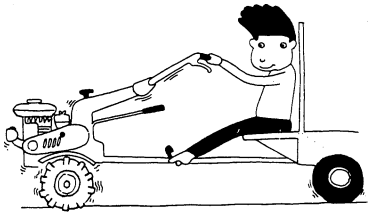
●点検・整備のため取り外された防護装置は、正しく復元され、十分に機能を発揮するかどうか。

●作業中の注意

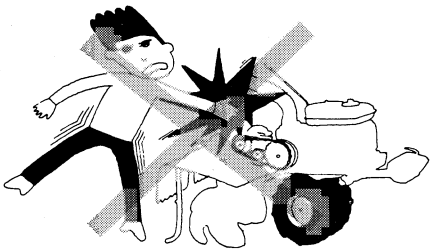
★作業中は、まわりに十分注意し、関係者以外の人を近づけない。
★傾斜地では転倒を防ぐため、速度や旋回などに十分注意する。
★作業場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過など、転倒には十分注意する。

★トレーラ作業の場合は、指定箇所以外に乗らない。また、定員以上乗せない。
★作業場への出入り、溝または畔越えを行うときは、アユミ板等を使用してください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなく危険です。

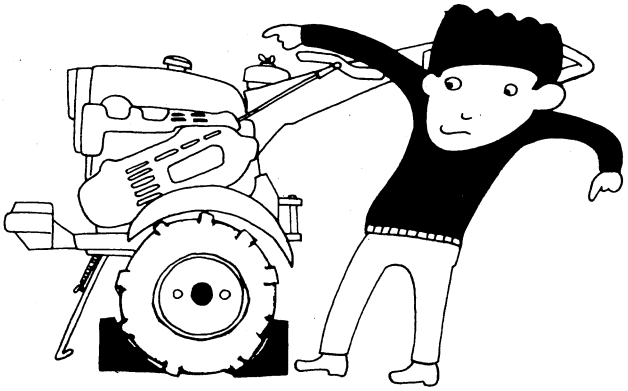
★車軸作業機を取付ける場合は、車軸取付部のガタを必ず確認してください。異常にガタがある場合、そのまま使用すると本機を破損するばかりでなく危険です。お買いあげ販売店へお申しつけ下さい。



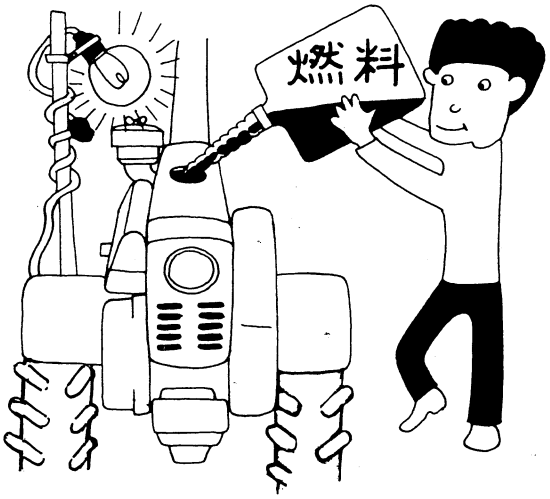
★作業中は、動力伝達装置や回転部に接触しないよう特に注意する。



★土塊や石などが飛び散る作業においては、傷害に注意する。
★休けいなどで機械を離れる場合は、安定した場所で確実に固定する。
★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行なう。



★ガソリン補給時は必ずエンジン停止。火気厳禁。
★夜間給油を行なう場合は、裸火を使用せず安全な照明のもとで給油する。
★ガソリンはこぼさない。
●ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。

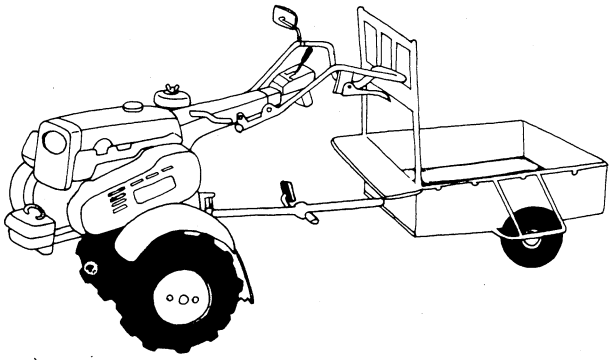


●正しいトレーラ走行

耕うん機とトレーラを小型特殊自動車として市町村役場に届出すると、一般公道での走行ができます。

★運転者が必ず携帯しなければならないもの。

- ●運転免許証
- ●小型特殊自動車届出済証





★走行前に次の点検確認をする。

- ●トレーラの主ブレーキは効くか？
- ●トレーラの手動ブレーキは効くか？
- ●ナンバプレートの確認
- ●反射鏡の確認
- ●後写鏡は装備してあるか？
- ●前照灯は点灯するか？
- ●警音器は鳴るか？
- ●タイヤの空気圧は適正か？
- ●保持ピンの取付けは？
- ●車軸ピンの取付けは？
- ●車輪のガタ、異常の有無

★次の点に注意してトレーラ走行する。

●走行中は、運転者以外の人を絶対に乗せないでください。
また走行中、運転者は立ったり坐ったりして運転しないでください。

●走行中は危険ですから、エンジン キル スイッチを作動させないでください。

●方向転換は、操向クラッチ レバーを切らずハンドルで行なう。

●坂道を下るときは、操向クラッチ レバーを使用しない。

●坂道の下りは、エンジン ブレーキと主ブレーキを併用する。

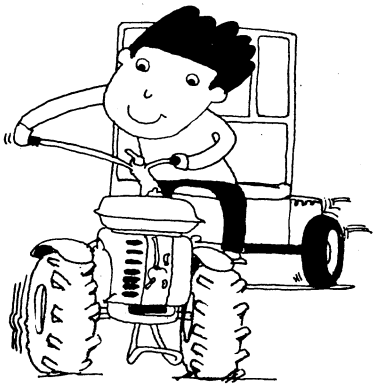
●坂道では変速しない。

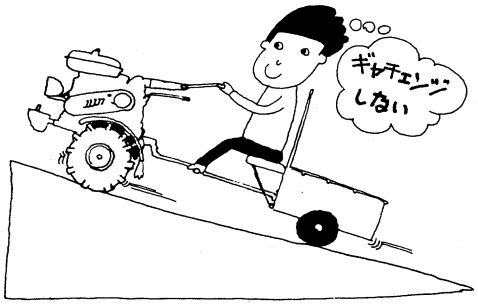
●車輪巾を広くする。

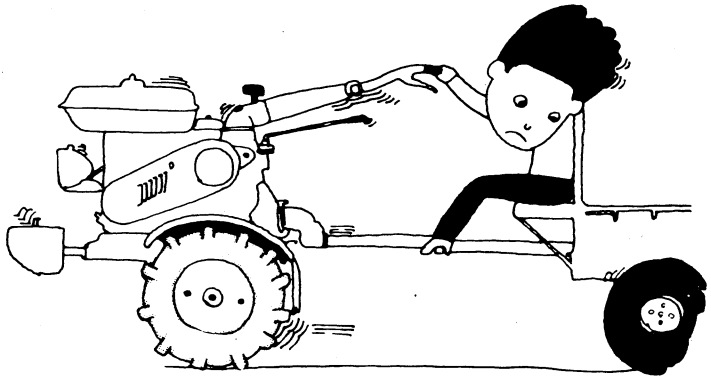
●本機のタイヤ空気圧を1.1kg／cm²～1.3kg／cm²にする。

●トレーラの表示限界積載量をまもる。

●走行は、毎時15km以下の安全速度をまもる。





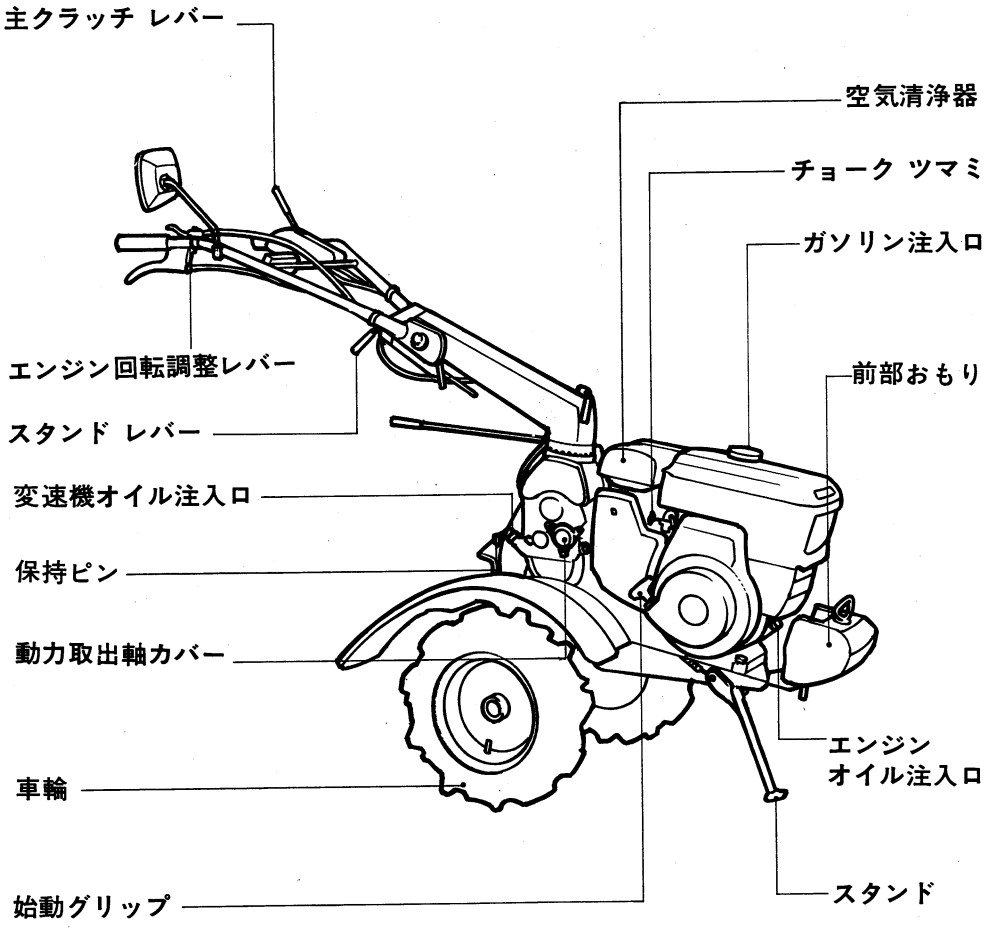


●作業が終ったら

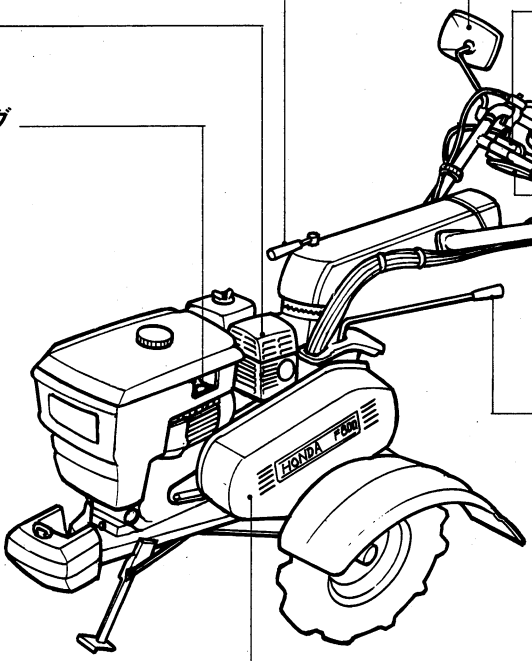
★次の作業のために機械の点検、整備を行なう。
★作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行なう。
★トラック等への積降し等は、転倒や落下に注意する。
★保管は安定した場所で安全な状態で行なう。



各部の名称と取り


主クラッチ レバー
空気清浄器
チョーク ツマミ
ガソリン注入口
前部おもり
エンジン回転調整レバー
スタンド レバー
変速機オイル注入口
保持ピン
動力取出軸カバー
車輪
始動グリップ
エンジン
オイル注入口
スタンド

扱いをおぼえましょう



ハンドル高さ調整レバー

後写鏡

消音器

エンジン キル スイッチ

点火プラグ

駐車ブレーキ
レバー

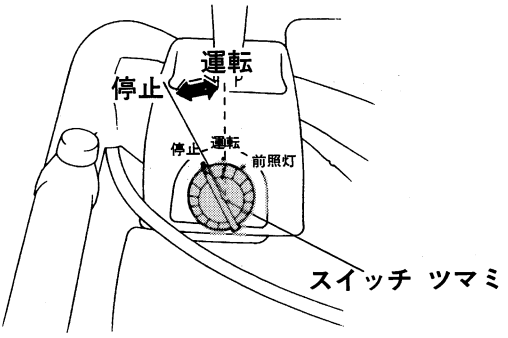
操向クラッチ レバー

変速レバー

ベルト カバー

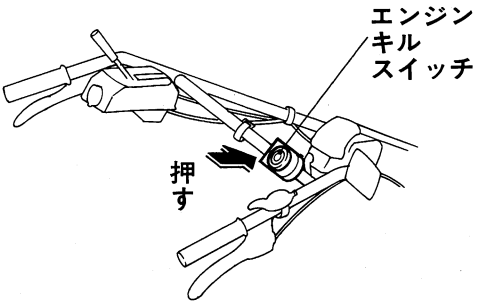
スイッチ ツマミ

スイッチ ツマミは、エンジンの始動、停止をする時に操作します。



エンジン キル スイッチ

エンジン キル スイッチは押すだけで、エンジンが停止できます。エンジン停止後、(エンジン スイッチ ツマミは〝運転〟の状態) 始動グリップを引くとエンジンが始動します。

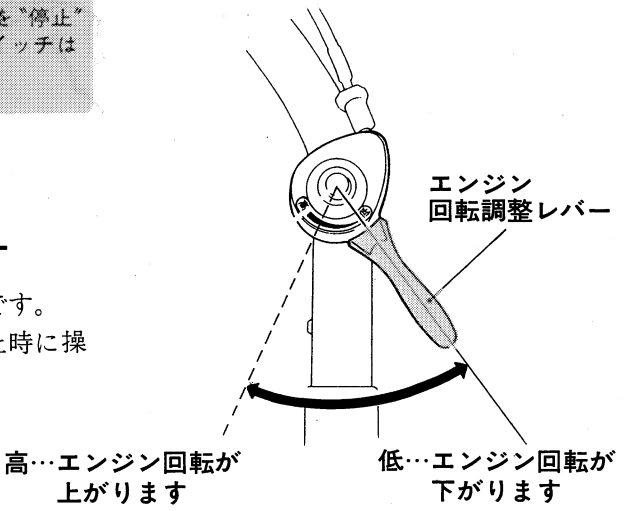


注意

- トレーラ走行中は危険ですから、エンジン キル スイッチを作動させないでください。
- 通常のエンジン停止、保管、点検時は、スイッチ ツマミを〝停止〟にしエンジン キル スイッチは使用しないでください。

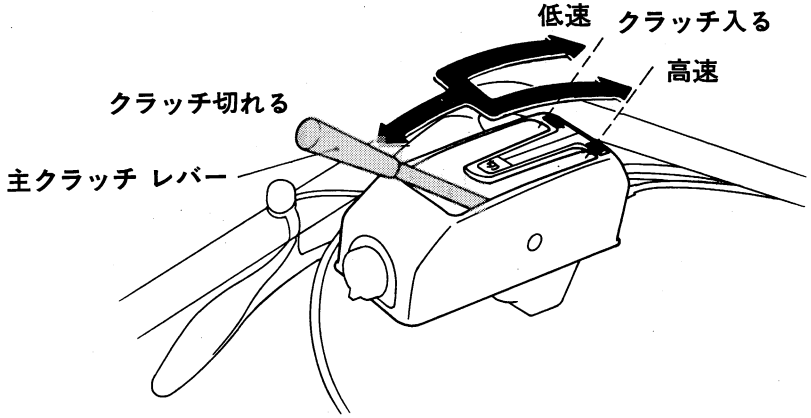
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



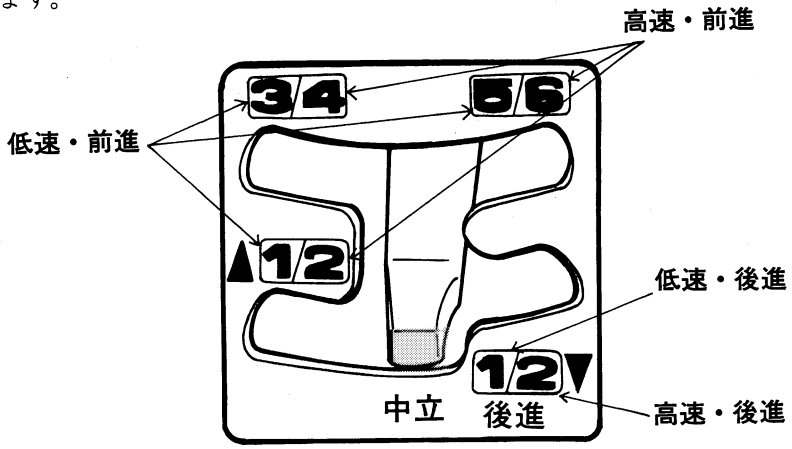
主クラッチ レバー

主クラッチは、車輪および動力取出軸への動力を断接する装置です。
主クラッチ レバーを手前に引くと動力が切れ、前方に倒すと動力が伝わります。
又、主クラッチ レバーは副変速の役目も兼備えています。



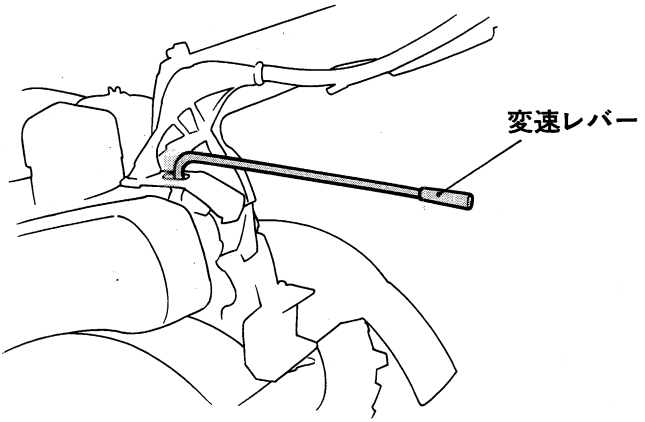
(副変速の役目)

主クラッチ レバーで〝**低速**〞側〝**高速**〞側に切り換えられます。
主クラッチ レバーで〝低速〞〝高速〞に切り換えると主変速レバーは図のようになります。



変速レバー

ティラーの速度を変える時に操作します。変速は、前進3段、後進1段です。

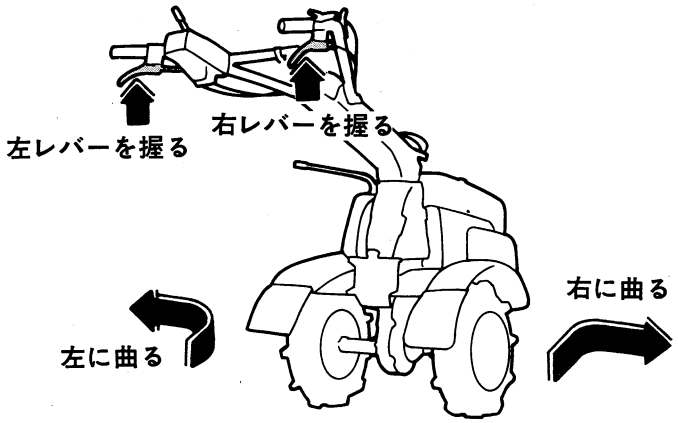


主クラッチレバーを〝低速〟〝高速〟にすると車速は前進6段、後進2段になります。



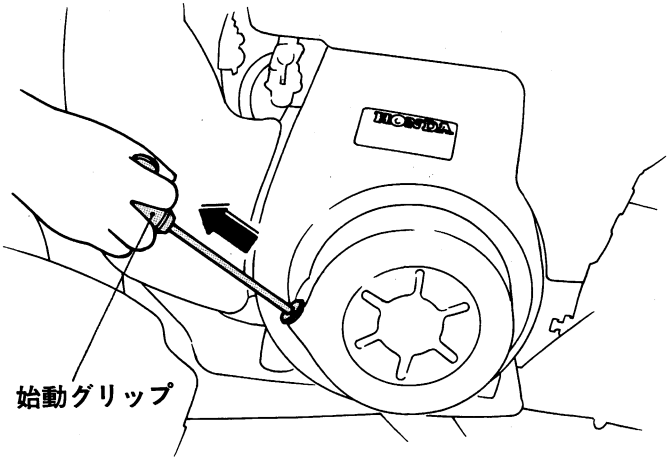
操向クラッチ レバー

方向を変えるときに使います。
レバーを握ると握った方向に曲ります。



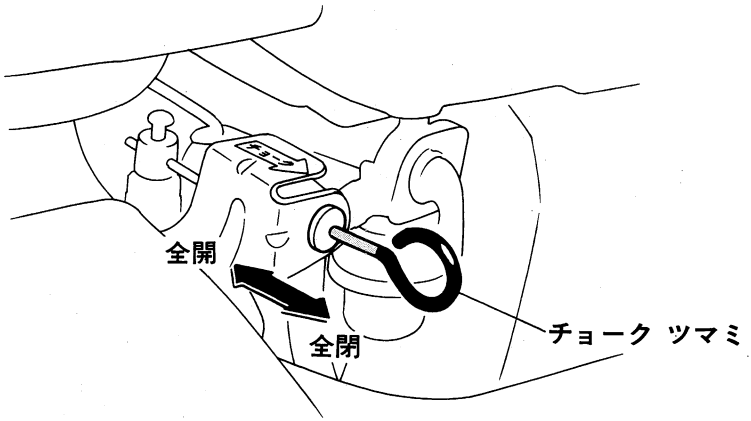
始動グリップ

エンジンを始動する時に操作します。



チョーク ツマミ

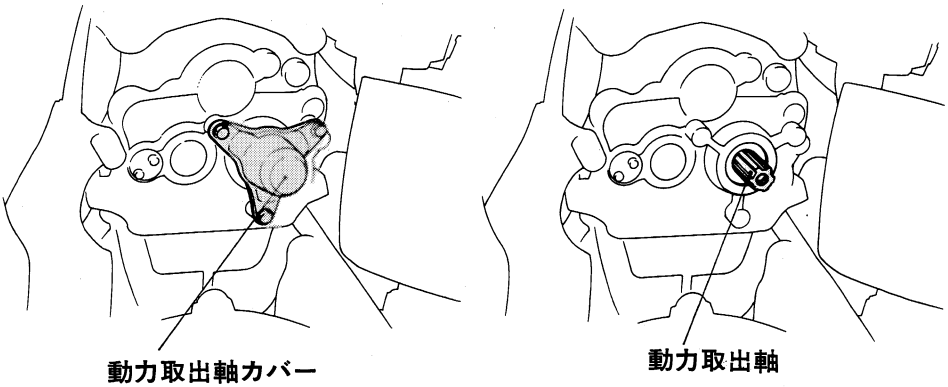
エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。



動力取出軸

動力取出軸は定置作業、動噴、草刈、中耕ロータリ等に使います。
動力の取出しは6㎜ボルト3本を外し動力取出軸カバーを取外して行ないます。

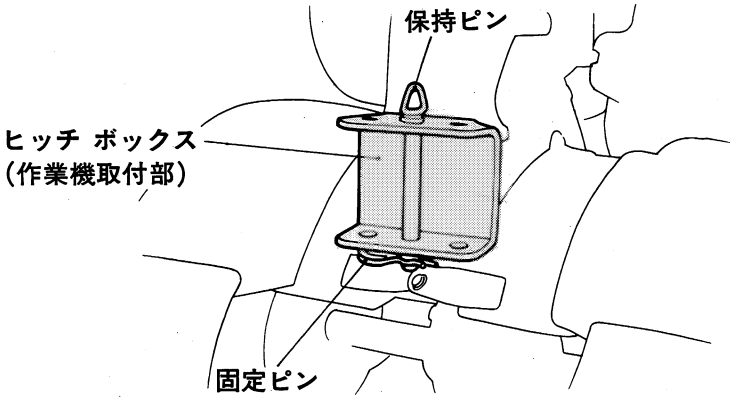
注意 ・動力取出軸を使わない時は必ずカバーを取付けてください。



ヒッチ ボックス(作業機取付部)

作業機を取付けるところです。

取付けは、保持ピンを差し込みます。保持ピンは、固定ピンで固定します。



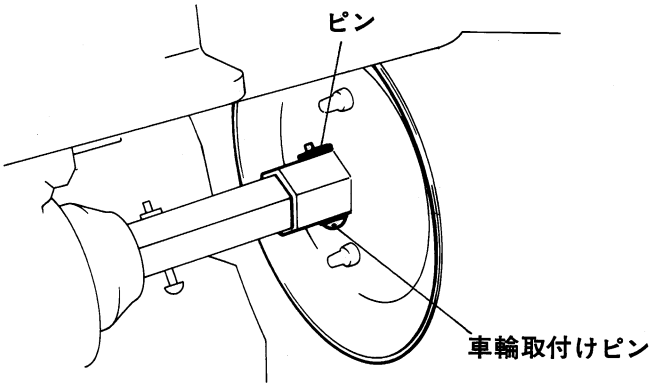
車輪取付けピン

車輪の取付け、取外し、車輪幅の調整を行うときに取扱います。

〈調整のしかた〉

ピン、車輪取付ピンをはずし、任意の穴へさしかえます。

注意 ・車輪を取外す時は、２人で行なうか棒等で支え転倒に注意してください。



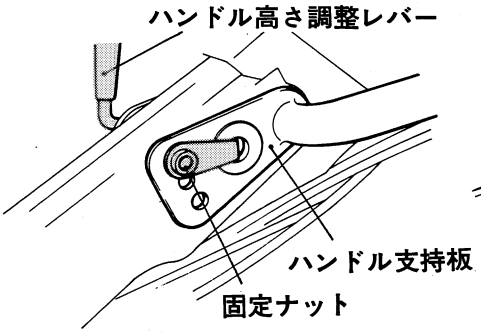
ハンドル高さ調整レバー

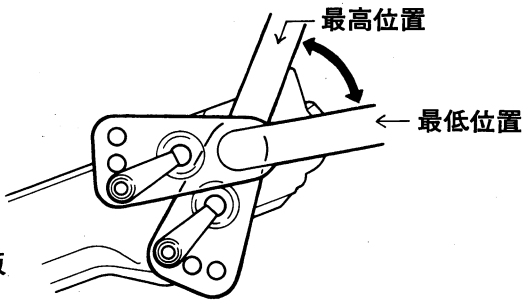
ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるレバーです。

〈調整のしかた〉

調整レバーを回して、固定ナットからはずし、任意の穴へさしかえます。

レバー差しかえ時、固定ナットの先端を、ハンドル支持板の穴に差し込み固定します。



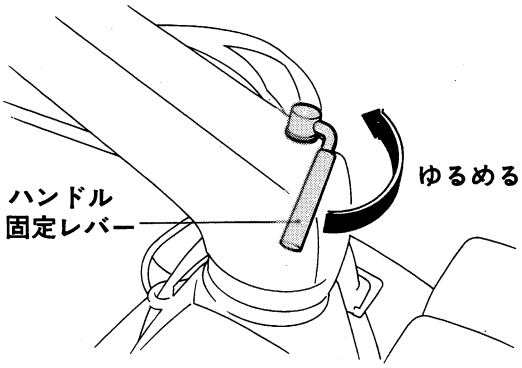


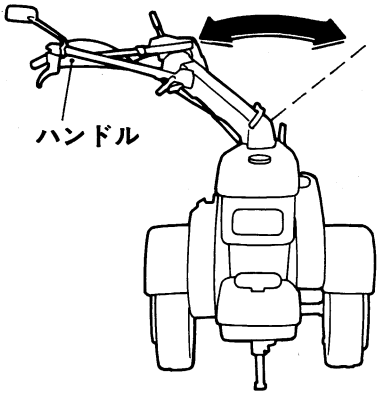
ハンドル固定レバー

ハンドルの角度調整、反転時に取扱います。

〈角度調整のしかた〉

ハンドル固定レバーをゆるめて行ないます。

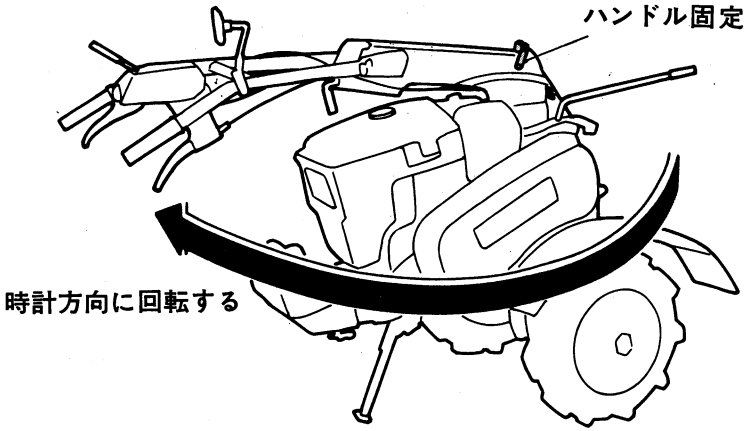




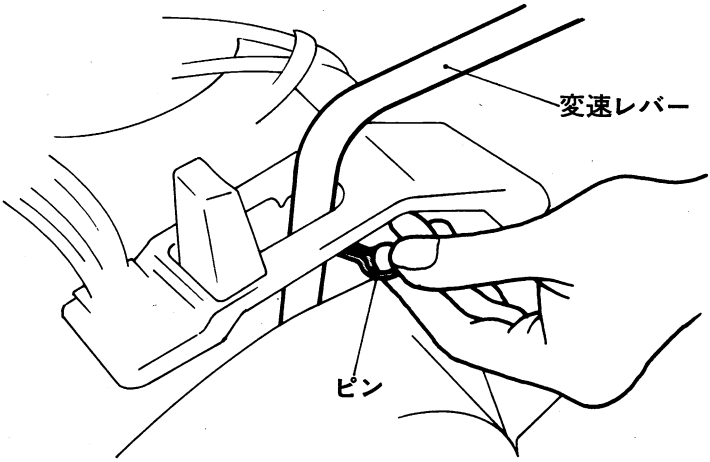
〈反転のしかた〉

1.ハンドル固定レバーを左にまわしゆるめます。

2.ワイヤー類が引っかからないよう注意しながらハンドルを時計方向にまわし、機体の中心にハンドルを合わせ、固定レバーを右にまわし締付けます。



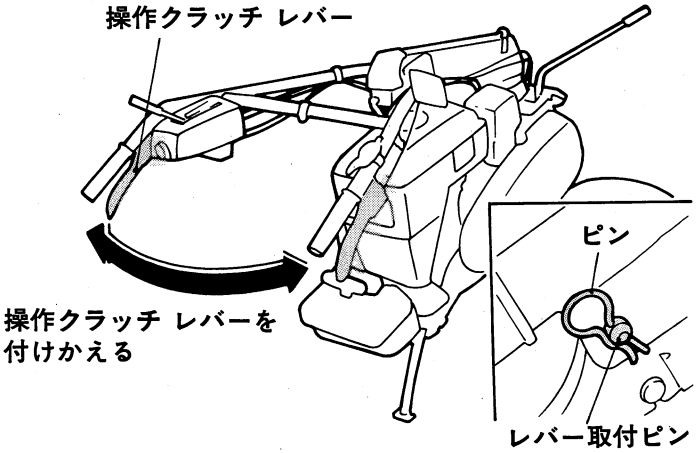
3.変速レバーを固定しているピンを外し、変速レバーを時計方向にまわします。



4.ピンを元通り取付けます。

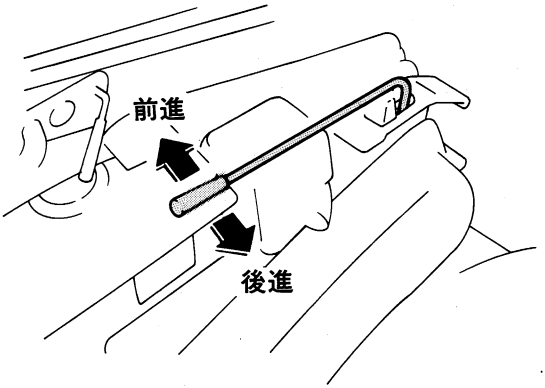
●ハンドルを反転すると操向クラッチ　レバーが左右反対になります。

5.ピン・レバー取付けピンを外し、左右操向クラッチ　レバーを付けかえます。



6.ハンドル反転後、ハンドル固定レバーの締付け、各ピン類の取付けが完全であるか確認します。

●ハンドルを反転すると変速は前進1段、後進1段となります。

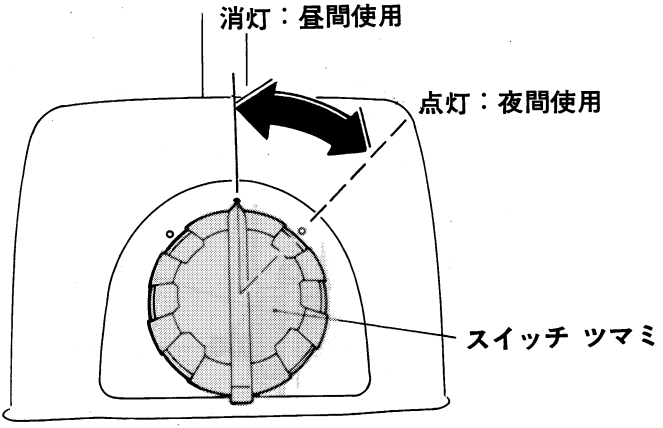


注意

・ハンドル反転時、操向クラッチ レバーを左右付けかえてあるかどうか必ず確認してください。
付けかえないと旋回方向が反対になり危険です。
・ハンドルを元に戻した時には必ず変速レバーも元に戻してください。

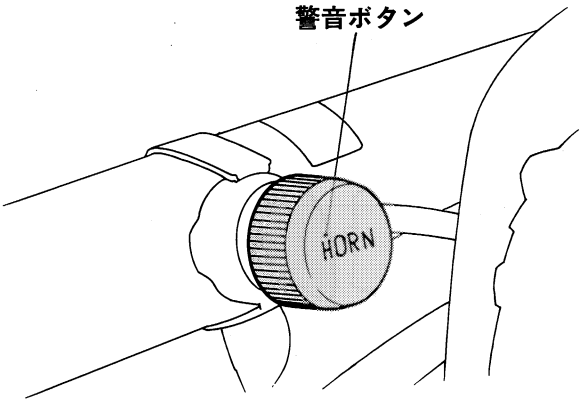
前照灯スイッチ

夜間作業を行なうときに使用します。
エンジンを始動し、スイッチ ツマミを右に回すと点灯します。



警音ボタン

エンジンを始動し、警音ボタンを押すと警音器が鳴ります。



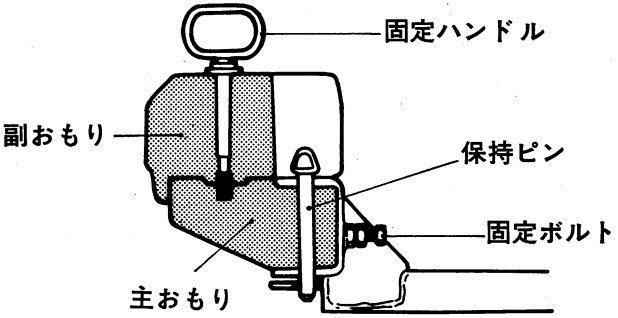
前部おもり(フロント ウエイト)

主おもり、副おもりの2つに分れています。作業内容に応じて本機重量の増減に使用します。

〈取付けかた〉

1.図のように主おもりを保持ピンで取付け、左右の固定ボルトで固定します。

2.副おもりを主おもりの上にのせ、固定ハンドルで固定します。

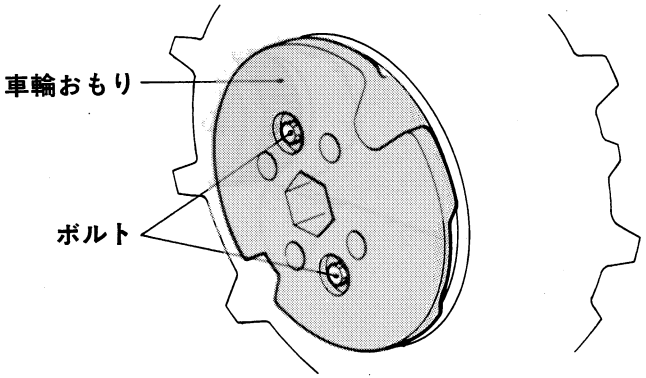


車輪おもり(ホイール ウエイト)

けん引作業のときに本機重量の増減に使用します。

取付けは、ボルト、ナットで行ないます。

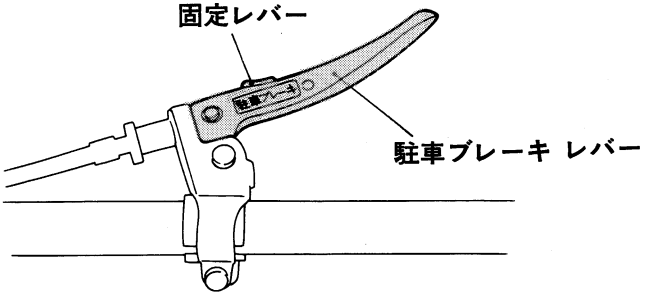
注意 ・ボルト、ナットは運転中にゆるまないように確実に締付けてください。



駐車ブレーキ　レバー

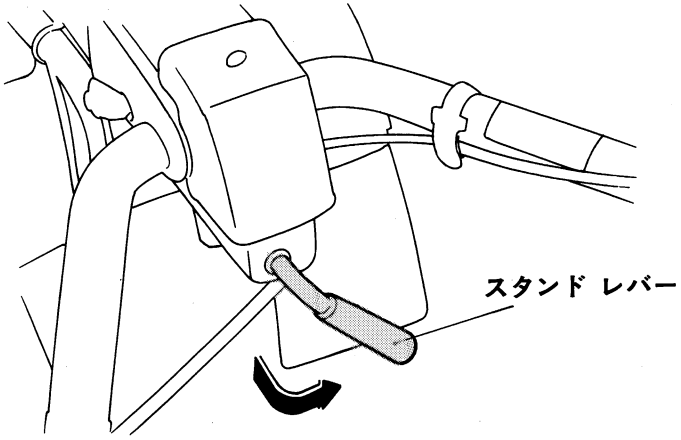
作業中ちょっとティラーをとめた時および長期保管等の駐車時に操作します。
ブレーキ　レバーを握るとき、同時に固定レバーを握ることによりブレーキがかかります。
戻すときはレバーを握ると自動的にブレーキが解除されます。

注意
・トレーラ走行中、制動ブレーキとして使用しないでください。
・走行中には必ずレバーを戻してください。



スタンド レバー

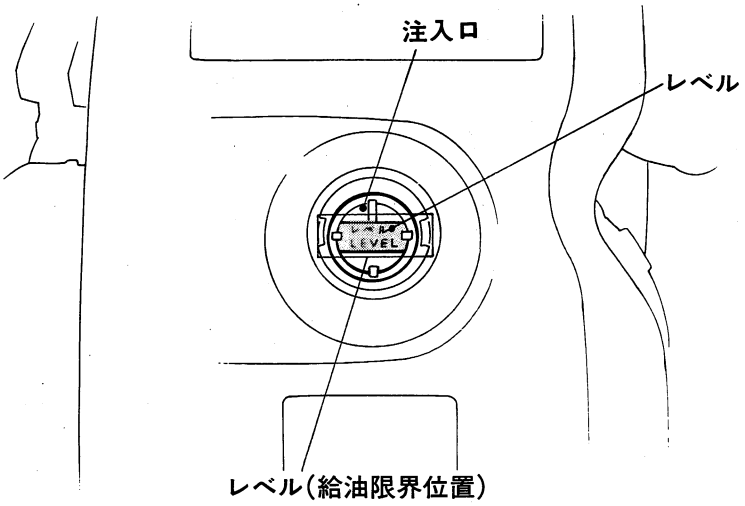
本機の停止時、長期保管時に使用します。
レバーを引くとスタンドが格納し、戻すとスタンドが出ます。



ガソリンの点検

点検

燃料給油キャップを外し、給油口のレベル(給油限界位置)までガソリンがあるか点検します。すくない場合は補給してください。



補給

使用ガソリン：無鉛（レギュラ ガソリン）

タンク容量：4.3ℓ

・キャップを外し、給油口のレベル（給油限界位置）まで補給してください。
・キャップは完全にはめ込みいっぱいにまわしてください。

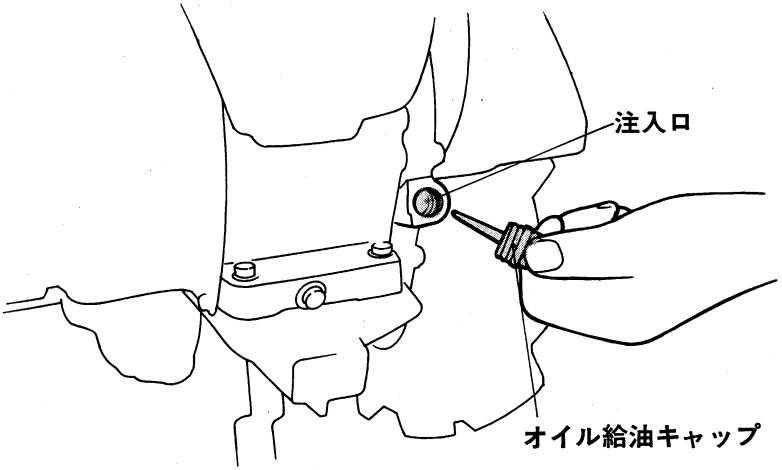
注意
・火気厳禁
・必ずエンジンをとめて補給してください。
・本機に貼られている注意ステッカにしたがってください。

前に点検しましょう

エンジンオイルの点検

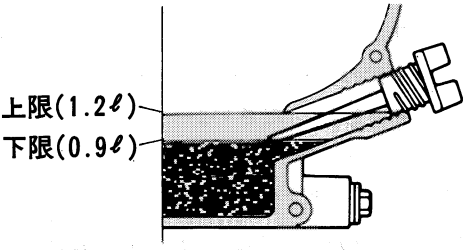
点検

オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検します。すくない場合は補給してください。



補給

・少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。
・汚れや変色が著しい場合は交換してください（交換時期、方法は43頁参照）
・指定オイル：ホンダ純正ウルトラ ネオ汎用機用（ＳＡＥ30）、ウルトラ-U（２輪車用）またはＡＰＩ分類ＳＥ級相当のエンジン オイル



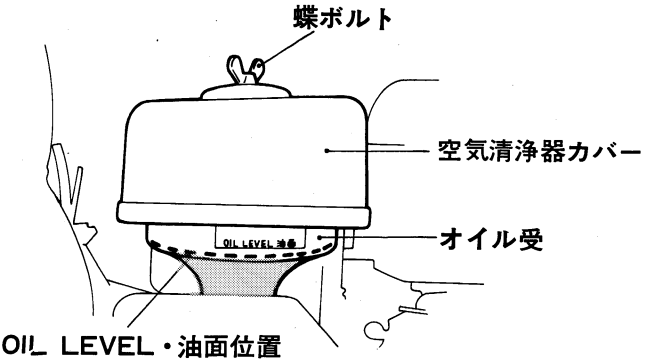
注意
・極寒地域で使用する場合は、ウルトラ-U（2輪車用）またはAPI分類SE級相当のSAE10W−30 エンジン オイルをご使用ください。

注意
・キャップは、ドライバー等で確実に締付けてください。
・締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

空気清浄器(エア クリーナ)オイルの点検

点検

オイル受の**OIL LEVEL・油面**の位置までオイルがあるか点検します。
すくない場合は、補給してください。



補給

使用オイル：新しいエンジンオイル

オイル容量：55cc

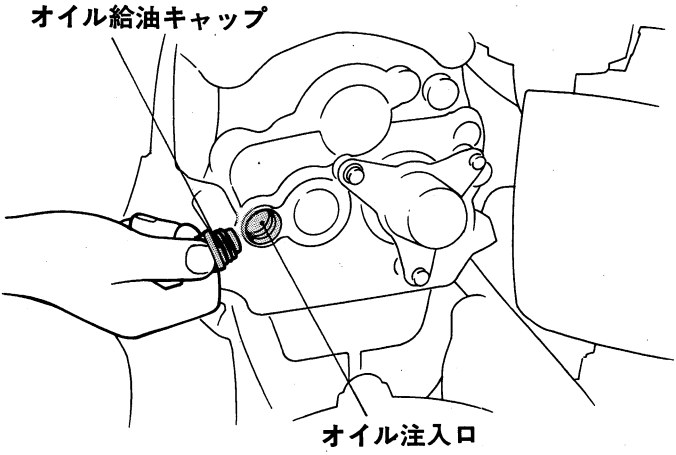
1.蝶ボルトを外し、空気清浄器カバーを取外します。
2.オイル受の**OIL LEVEL・油面**の位置まで補給してください。
3.補給後、カバーを取付け、蝶ボルトを完全に締付けてください。

・オイルの汚れがひどい時には、空気清浄器の清掃、オイル交換を行なってください。(清掃、オイル交換要領は45頁参照)

変速機オイルの点検

点検

オイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。
すくない場合は補給してください。

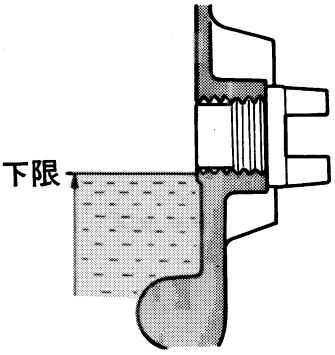


補給

使用オイル：新しいエンジンオイル

オイル容量：3.5ℓ

- 給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは完全に締付けてください。
- オイルの汚れがひどい時は交換してください。（交換時期、方法は44頁参照）



タイヤ空気圧の点検

点検

空気圧が正規か確認してください。空気圧が高過ぎるとけん引力が不足し、低すぎるとタイヤの寿命を短かくします。

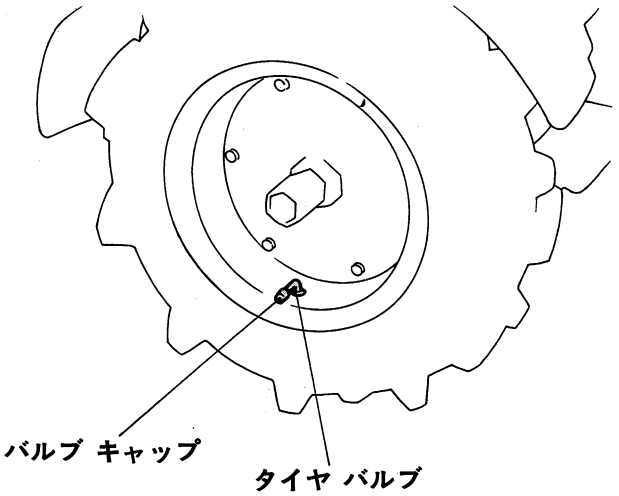
空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。

補給

バルブ キャップを取外し、タイヤ バルブより空気を注入する。

タイヤ サイズ：4.00－9

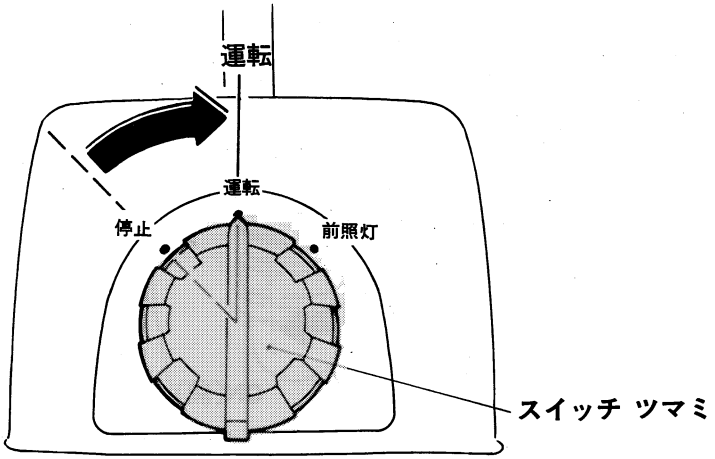
標準空気圧：1.1～1.3kg/cm²



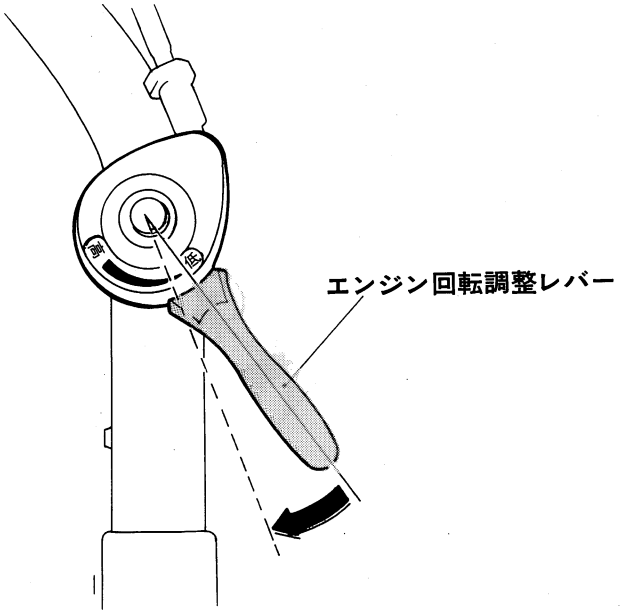
エンジンのかけかた

★主クラッチ レバー〝切〟変速レバー〝中立〟になっているか確認してからエンジンをかけてください。

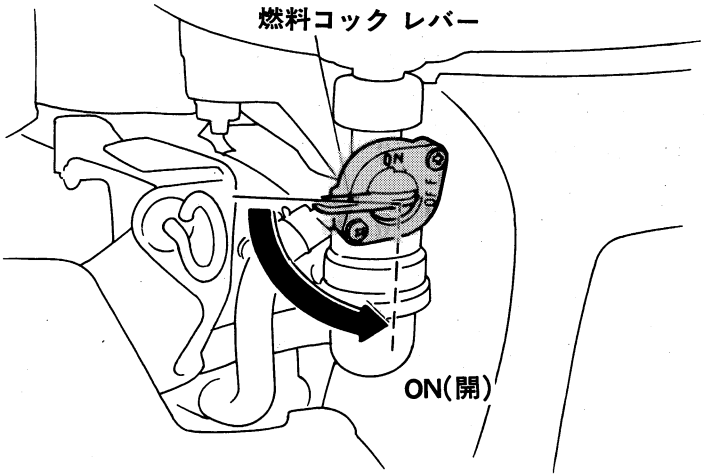
1.スイッチ ツマミを〝**運転**〟に合わせます。



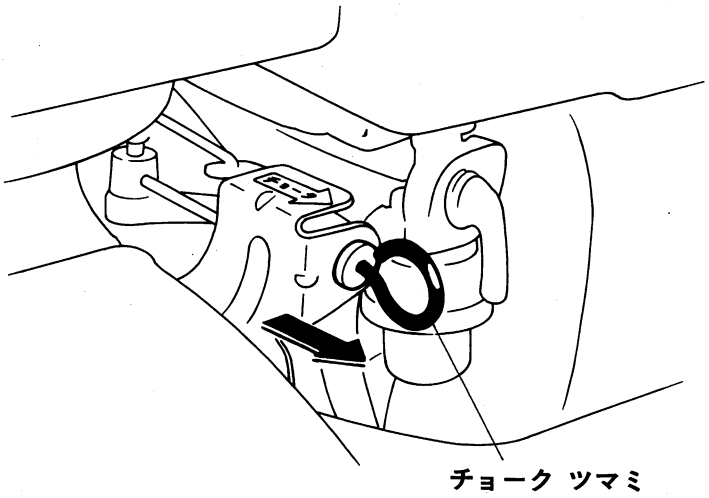
2.エンジン回転調整レバーを〝**高**〟方向に少しまわします。



3.燃料コック　レバーを〝ON(開)〟に合わせます。

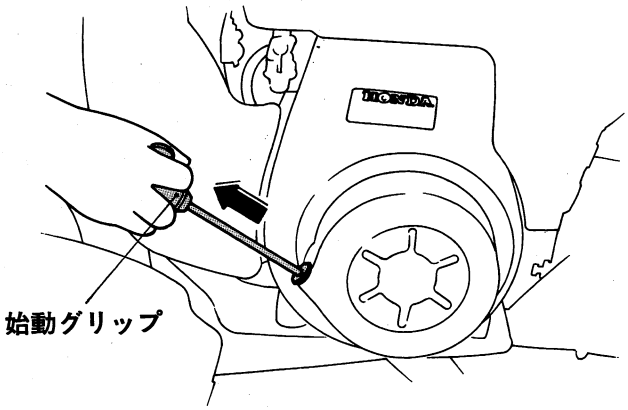


4.寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク　ツマミを一杯に引きます。



5.始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。

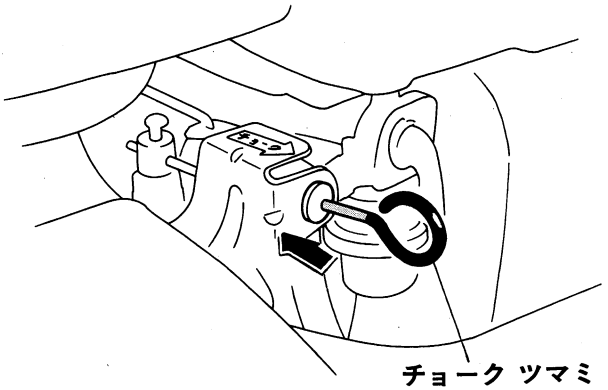
注意
- グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。



始　動

6.2～3分間暖機運転を行ないます。

チョーク ツマミを引いた時はエンジン回転が安定するのを確認しながら除々に戻します。



運転操作のしかた

★安全な作業を行なうために、十分に理解して行なってください。

〝変　速〞

1.変速レバー

変速表の適応作業を目安に変速位置を選びます。

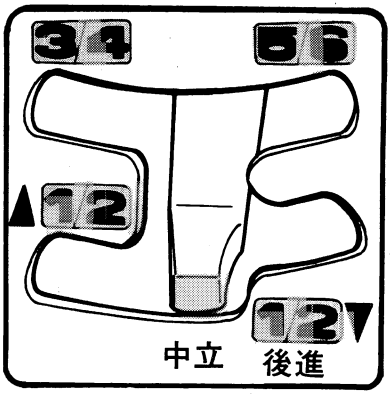
速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

変速の要領

1)変速レバーは、必ず主クラッチを切ってから操作します。

2)変速レバーが作動しにくい時にはいったん〝中立〞に戻し、主クラッチを入れて少し動かし、主クラッチを切りもう一度操作します。

3)後進の場合、特に足元に十分注意し低速で運転します。



変速表

副変速	主変速位置	車軸回転数(rpm)	適　応　作　業
低　速	1	10.83	ロータリー耕うん、ロータリー畝立、マルチ、掘取作業
	3	30.07	稲ワラ集積、施肥播種、掘取り作業
	5	76.78	ローター、代掻、トレーラー
	後進1	12.47	タバコ抜幹
高　速	2	18.06	ロータリー耕うん、ロータリー畝立、マルチ、掘取作業
	4	50.11	ローター、代掻
	6	127.97	トレーラー
	後進2	20.78	タバコ抜幹

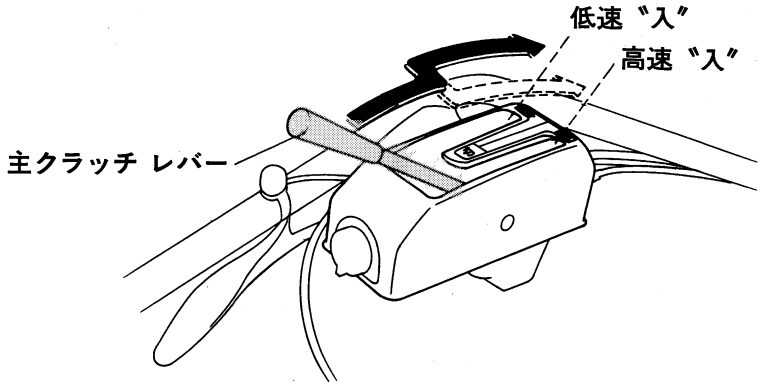
〝運　転〞

2.主クラッチ レバー

主クラッチ レバーの操作は、静か（スムーズ）に行ないます。
急激な操作を行うと機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

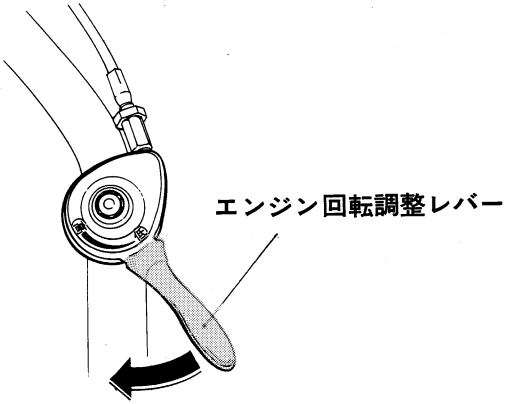
主クラッチの機能

・レバーを引く―クラッチ〝切〞（動力切れる）
　レバーを倒す―クラッチ〝入〞（動力伝わる）



3.エンジン回転調整レバー

レバーを高方向にまわし、エンジン回転を上げます。



〝旋　回〞

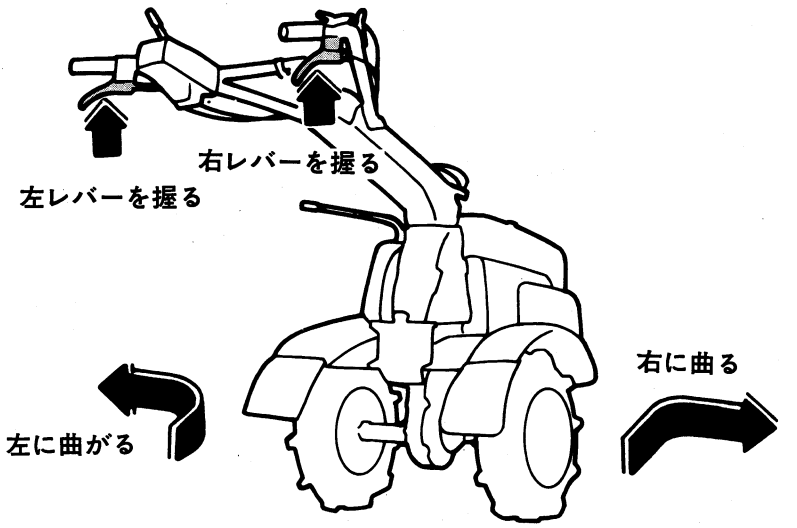
4.操向クラッチ レバー

旋回しようとする方向のレバーを握ると旋回します。

操向クラッチの機能

右クラッチ　レバーを握る→右に曲る

左クラッチ　レバーを握る→左に曲る



注意

・高速運転時、操向クラッチ レバーを操作しないで下さい。
高速時操作すると、本機が急旋回し、運転者が飛ばされることがあり大変危険です。

・登り坂、下り坂では操向クラッチ レバーを操作しないでください。
登り坂、下り坂で操向クラッチ レバーを操作すると思いがけない方向に急旋回したり、急降下したりして大変危険です。

・ハンドルを反転した時には、操向クラッチ レバーをつけかえてください。

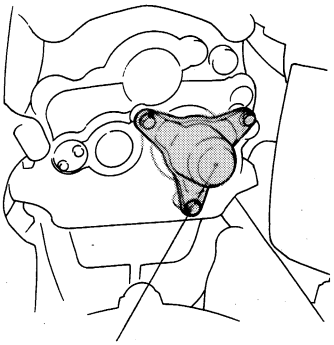
〝動力取出し〞

5.動力取出軸の使いかた

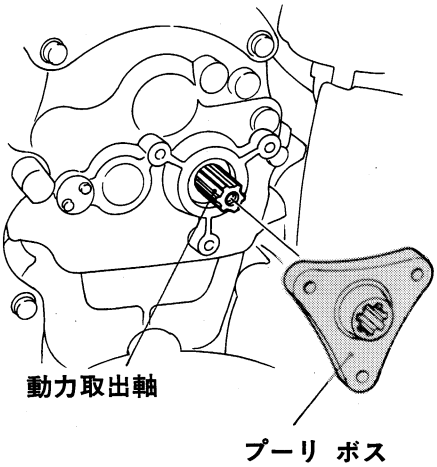
・動力は、ハンドル側に取出します。

1)ボルト 3 本を外し動力取出軸カバーを取外します。

2)動力取出軸にプーリ ボスを取付け、プーリをボルトで取付けます。



動力取出軸カバー



動力取出軸

プーリ ボス

注意

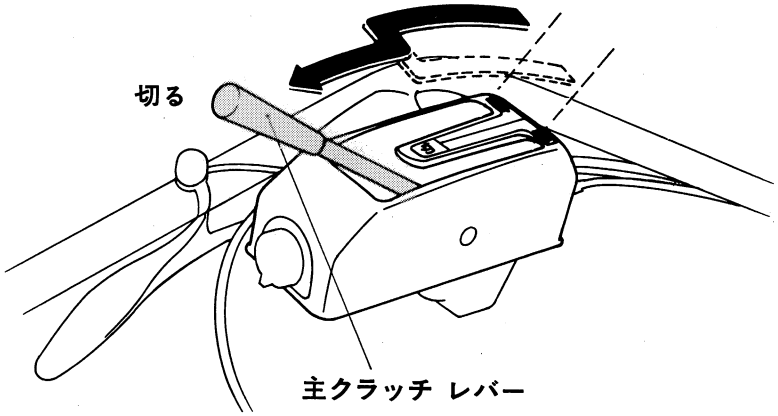
・動力取出しカバーは、取出軸を使わない時は常に取付けておいてください。
カバーを付けないでおくと衣類等が巻きつくことがあり危険です。

・本機のスタンドを立て、立てた位置で固定し、傾かないよう板等をスタンドの下に敷いて下さい。
スタンドが地中に入るとベルト等が外れることがあります。

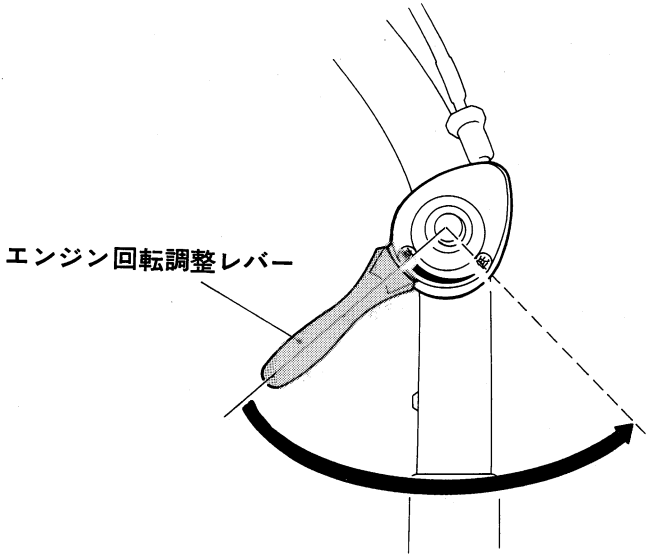
・変速レバーを中立にしてください。中立にしないと本機が動き危険です。

エンジンのとめかた

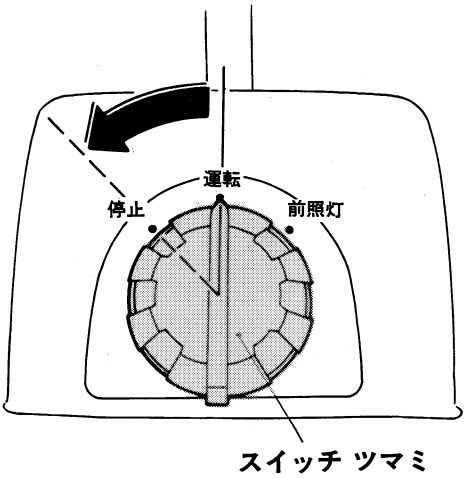
1.主クラッチ レバーを〝**切**〟変速レバーを〝**中立**〟にします。



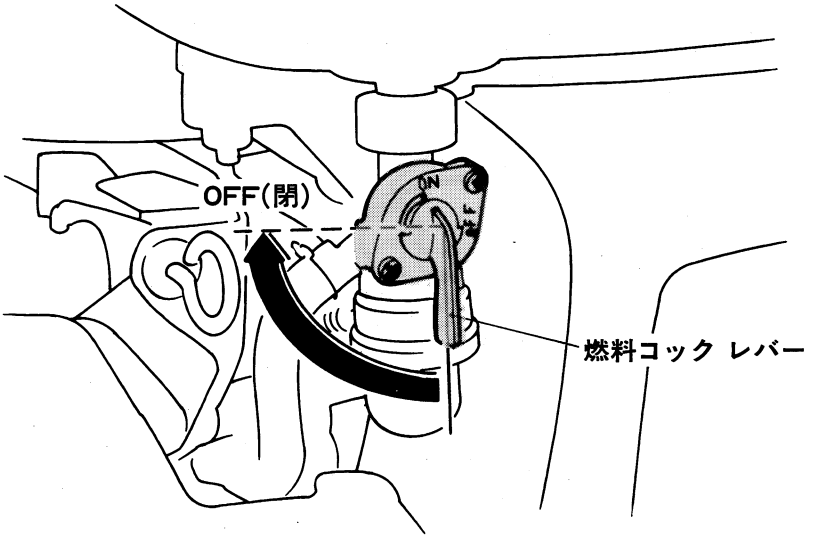
2.エンジン回転調整レバーを〝**低**〟の位置に戻す。



3.スイッチ ツマミを〝停止〟に合わせます。



4.燃料コック レバーを〝OFF(閉)〟に合わせます。

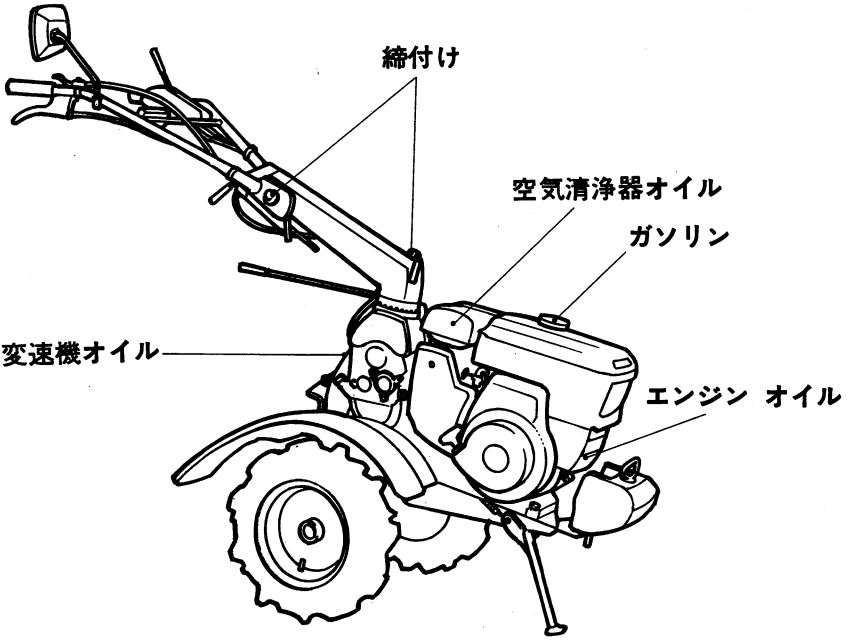


定期手入れを行ないましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行なってください。

- エンジン オイル……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- 変速機オイル……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- 空気清浄器オイル……{規定量入っているか。／汚れていないか。}
- ガソリン……残量
- 異常個所……前日悪かった所
- 各部の締付け……ハンドル高さ調整レバー、ハンドル固定レバーにゆるみ、がたはないか。
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきましたティラーをいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時間		作業前点検	初回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間 運転毎又は 1年に1回
エンジン オイル	点検	○				
〈注1〉	交換		○		○	
変速機オイル	点検	○				
〈注1〉	交換		○			○
空気清浄器	点検	○				
	オイル交換			○〈注2〉		
駆動ベルト	調整		○		○	
燃料ろ過カップ	清掃				○	
点火プラグ	清掃				○	
	調整					
駐車ブレーキ ワイヤ	調整				○	
エンジン回転調整 ワイヤ	調整					○
主クラッチ ワイヤ	調整					○
操向クラッチ ワイヤ	調整					○
吸入・排気弁間隙	点検					○〈注3〉
	調整					
燃料室	清掃					○〈注3〉
（バルブ摺合せを含む）						
燃料タンク、燃料ろ過器	清掃					○〈注3〉
燃料チューブ	交換	3 年 毎〈注3〉				

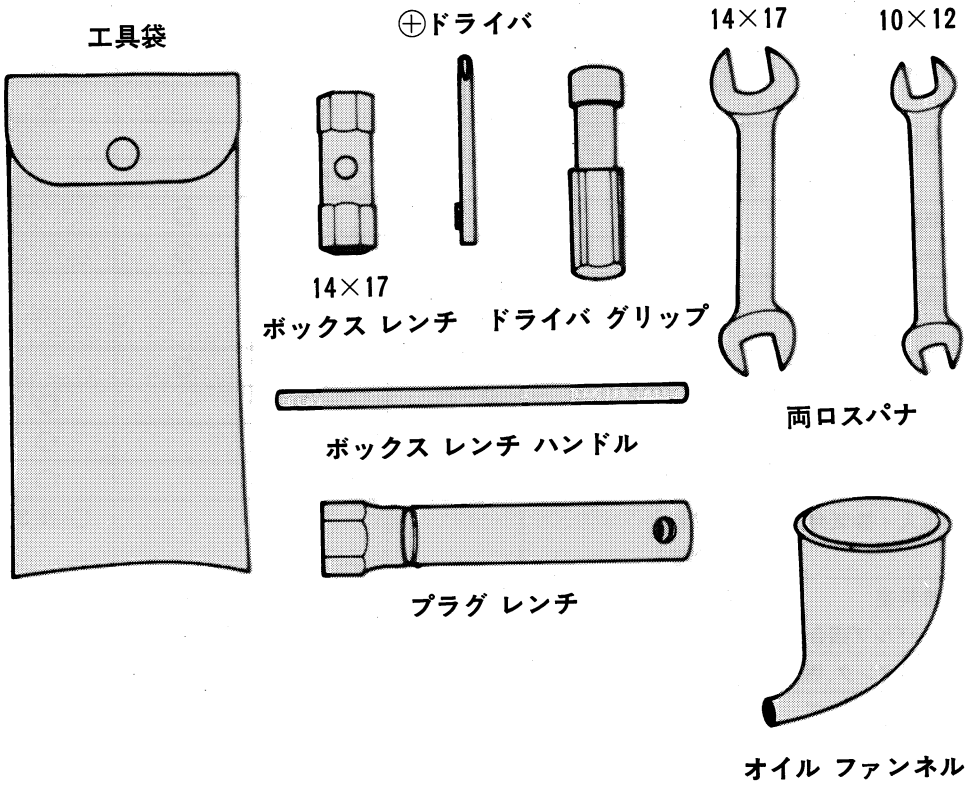
〈注1〉エンジン オイル……稼動期前にも必ず交換してください。
変速機オイル……稼動期前に汚れ具合を確認し、汚れがひどい場合は交換してください。

〈注2〉ほこりの多い作業の時は10時間毎または1日1回清掃する。

〈注3〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

携帯工具

工具は、点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：20時間目、以後：100時間運転毎

《指定オイル》

ホンダ純正ウルトラ ネオ汎用機用(SAE30)、ウルトラ－U(２輪車用)またはAPI分類SE級相当エンジン オイル

注意 ・極寒地域で使用する場合は、ウルトラ－U(２輪車用)またはAPI分類SE級相当のSAE10W－30エンジン オイルをご使用ください。

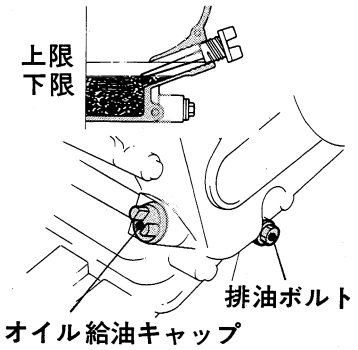
《規定量》 1.2ℓ

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
   エンジンが暖かいときに行なうと、エンジン内に残る量が少なく早く抜けます。
2. オイルが完全に抜けたら排油ボルトを確実に締付けます。
3. エンジン オイルを給油キャップのレベル ゲージで確認しながら上限まで注入します。(給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。)
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないようにドライバー等で確実に締付けます。

・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ないましょう。

注意 ・エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いので火傷に十分注意してください。





変速機オイルの交換

変速機オイルが汚れていると変速機各部の摩耗を早めます。

《交換時期》

初回：20時間目、以後：300時間運転毎または1年1回

《使用オイル》

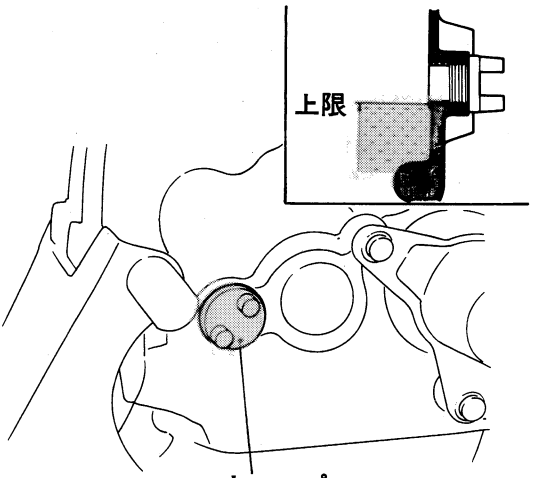
新しいエンジンオイル

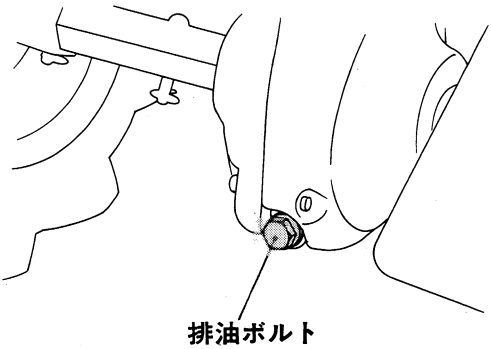
《規定量》 3.5ℓ

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. オイルが完全に抜けたら、排油ボルトを確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けてください。

・オイルは使用しなくても自然に劣化します。
定期的に点検・交換を行ないましょう。





空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

空気清浄器が目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》

清掃：50時間毎

ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間毎。

《使用オイル》

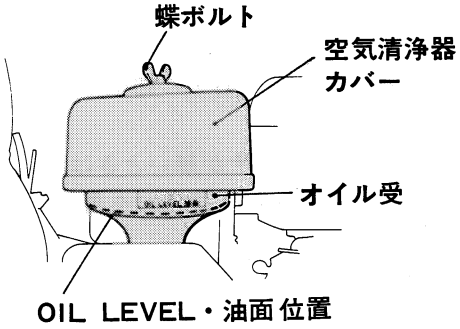
新しいエンジンオイル

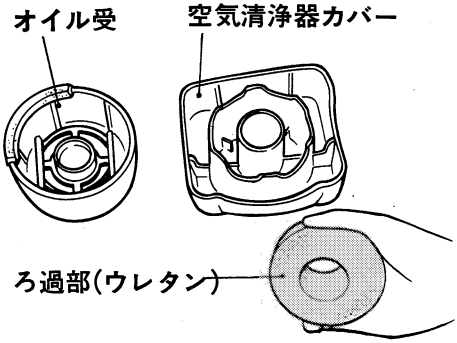
《規定量》 55cc

《清掃のしかた》

1. 蝶ボルトを外し、空気清浄器カバー、オイル受を取外します。
2. 空気清浄器カバー内のろ過部（ウレタン）を取外します。
3. ろ過部（ウレタン）を洗油で洗浄し、エンジン オイルを浸し固くしぼります。
4. オイル受の OIL LEVEL･油面の位置まで、きれいなエンジン オイルを入れます。

注意 ・ろ過部（ウレタン）を洗浄する時は火気厳禁。





点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

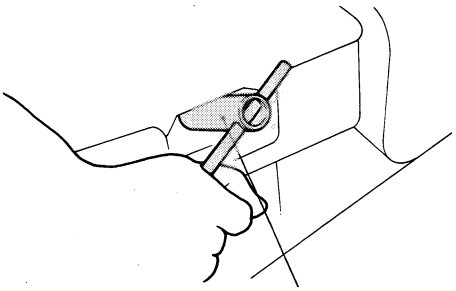
《清掃時期》

100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
2. プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

・プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。



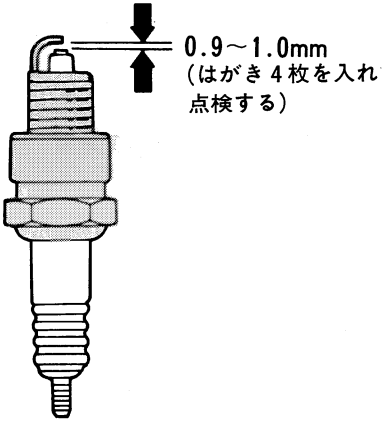
プラグ レンチ

《調　整》

・側方電極をつめ、火花すきまを0.9～1.0mmに調整します。

《標準プラグ》

BP4HS－10(NGK), W14FP－UL10(ND)



注意

・標準以外のプラグを使用しないでください。
・エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。

燃料ろ過カップの清掃

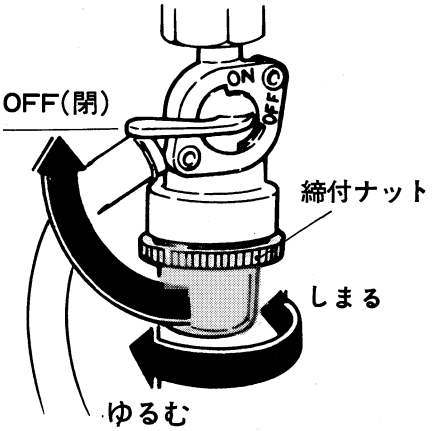
燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

《清掃時期》

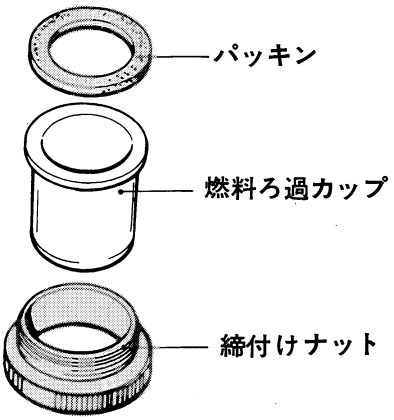
100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. 燃料コックレバーをＯＦＦ(閉)にします。
2. 締付けナットをゆるめ燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗油でよく洗い底にたまったゴミや水を取り除きます。
4. 清掃後、ガソリン洩れのないよう締付けナットを確実に締付けてください。



注意 ・燃料ろ過カップ清掃中は火気厳禁。



エンジン回転調整ワイヤの調整

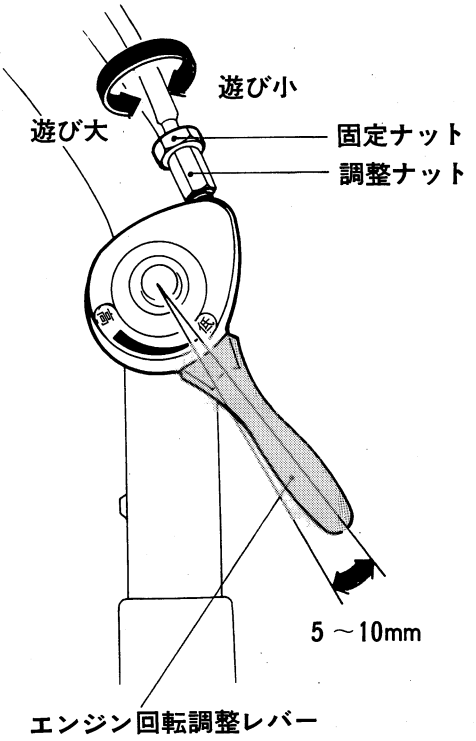
エンジン回転調整ワイヤの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

《調整時期》

300時間運転毎または1年1回

《清掃のしかた》

1. エンジン回転調整レバーの遊びが、先端で5～10mmになるように調整します。
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行なってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



主クラッチ ワイヤの調整

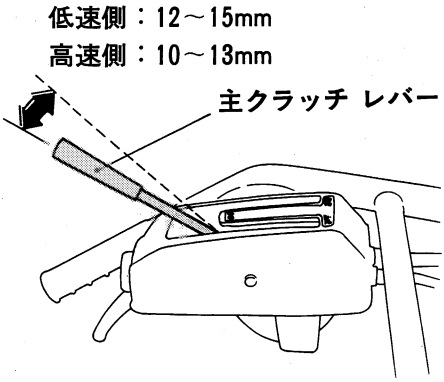
主クラッチ ワイヤの調整が完全でないとベルトがすべります。

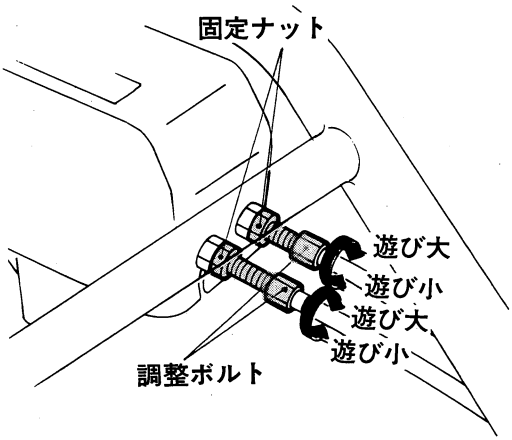
《調整時期》

300時間運転毎または1年1回

《調整のしかた》

1. 主クラッチ レバーを手前に引き、切った状態でレバー先端の遊びが低速側：12～15mm、高速側：10～13mmになるように調整します。
2. 調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトで行ないます。
3. 調整後固定ナットを確実に締付けてください。





操向クラッチ ワイヤの調整

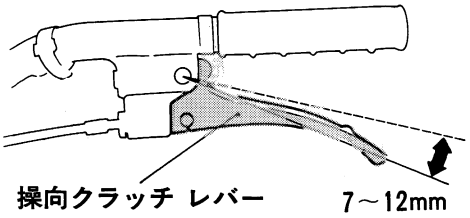
操向クラッチ ワイヤの調整が完全でないと操向クラッチの切れが悪くなります。

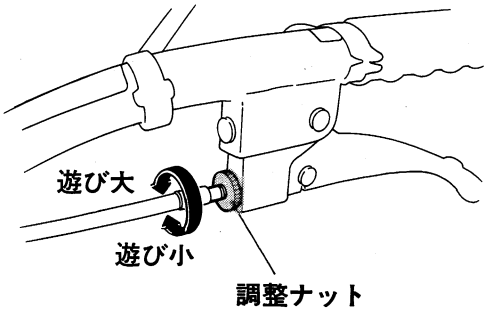
《調整時期》

300時間運転毎または1年1回

《調整のしかた》

1. 操向クラッチ レバーの遊びがレバー先端で7～12㎜になるように、左右同じ要領で調整いたします。
2. 調整は、調整ナットをまわして行ないます。





駐車ブレーキ ワイヤの調整

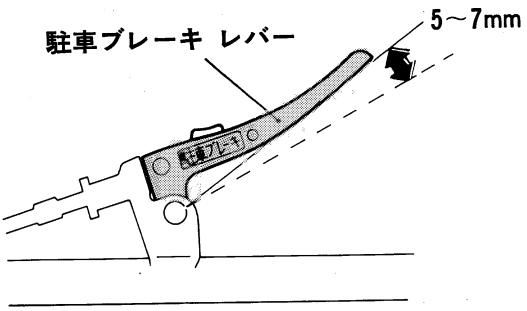
駐車ブレーキ ワイヤの調整は完全でないとブレーキの作動不良の原因となります。

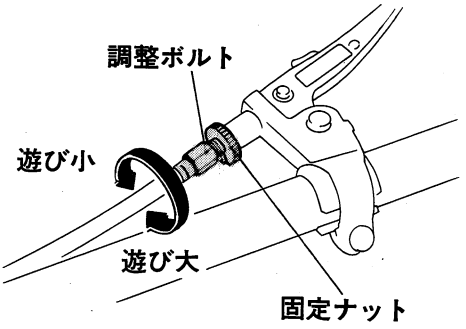
《調整時期》

100時間運転毎

《調整のしかた》

1. 駐車ブレーキ レバーの遊びがレバー先端で5～7㎜になるように調整する。
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ボルトで行ないます。





駆動ベルトの調整

《調整時期》

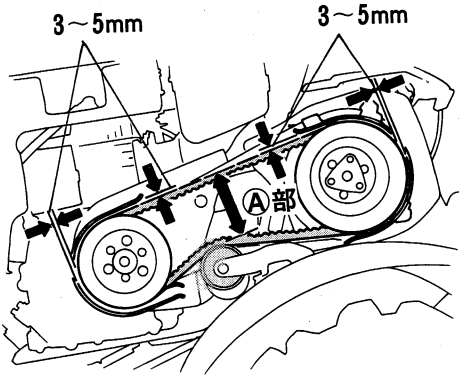
初回：20時間目

以後：100時間運転毎

1.ベルト カバーを取外します。

2.主クラッチ レバーを前方に倒した状態（クラッチが〝入〟の状態）で、Ⓐ部が下記の寸法になるように調整します。

	Ⓐ部寸法
低速	70～75mm
高速	70～75mm



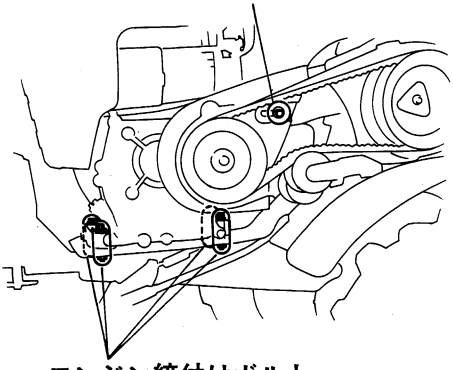
3.調整は、エンジン ステイ締付ボルト、エンジン締付ボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行ないます。

4.ベルトとベルト ストッパのすき間を上下とも3～5mmに調整する。

5.調整は、ストッパ締付ボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かして行ないます。

6.ベルト カバーを取付けます。

・調整後、ボルトは確実に締付けてください。



注意

・調整時エンジン側プーリの中心と変速機側プーリの中心を合わせてください。合わせないとベルトが早く傷みます。

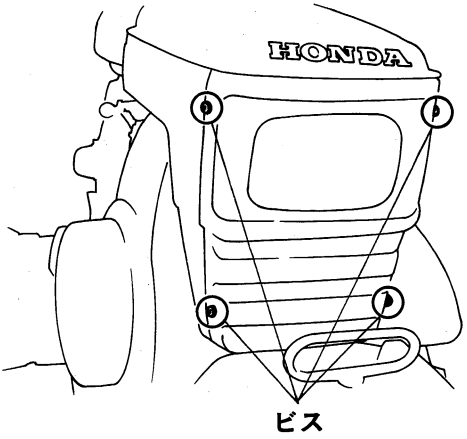
・ベルト カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると衣類が巻込み、思わぬ事故を招くことがあります。

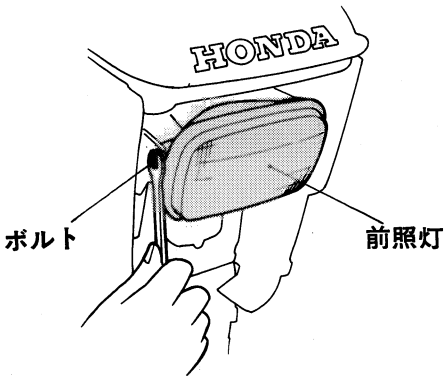
前照灯バルブの交換

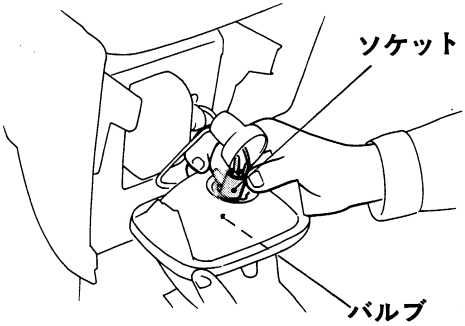
《交換のしかた》

1. ビス4本を外し、フロントカバーを取外します。
2. ボルト2本を外し、前照灯を取外します。
3. ソケットを押下げ左に回わして取外し、バルブを交換します。

規定バルブ：6 V－15W







長期間使用しない時の手入れ

★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行なってください。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ キャップをプラグから取外してください。

1 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜きます。

〈抜き方〉

1. 燃料コック レバーを〝OFF(閉)〟にします。
2. エンジン サイド カバーを取外します。
3. 気化器側のチューブを取外します。
4. 燃料コック レバーを〝ON(開)〟にしてタンク内のガソリンを容器に受けてください。
5. 気化器内のガソリンはドレン ボルトをゆるめ燃料を容器に受けてください。
6. 完全に燃料が抜けたらチューブ、ドレン ボルトを元の状態にもどし、燃料コック レバーを〝OFF(閉)〟にします。

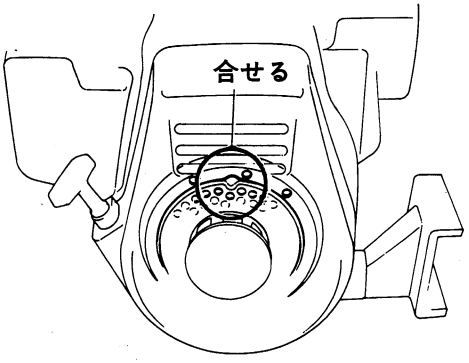
注意
- 燃料を抜く時は火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行なってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

2 エンジン オイルを交換します。(交換方法は43頁参照)

3 変速機オイルを交換します。(交換方法は44頁参照)

4 空気清浄器を清掃します。(清掃方法は45頁参照)

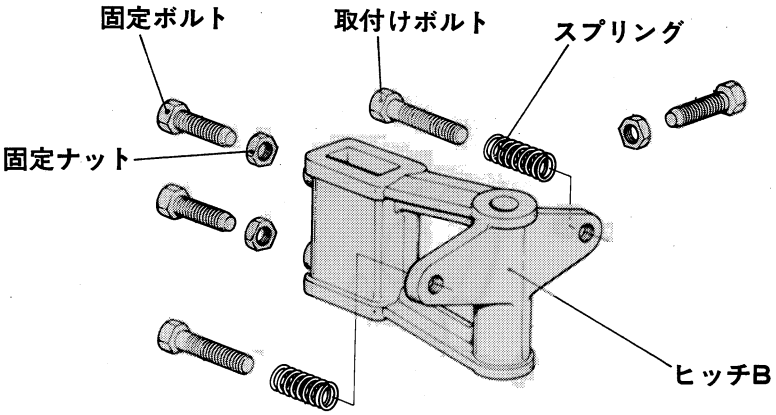
5 始動グリップを重くなるまで引き、プーリのマークとファン カバーのマークを合わせます。
(エンジン バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)



6 タイヤ空気圧を少し多くするか、車輪を浮かして湿気、ホコリの少ないところにスタンドを立てて保管します。

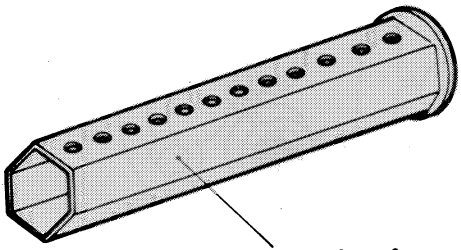
別　売　部　品

●ヒッチB



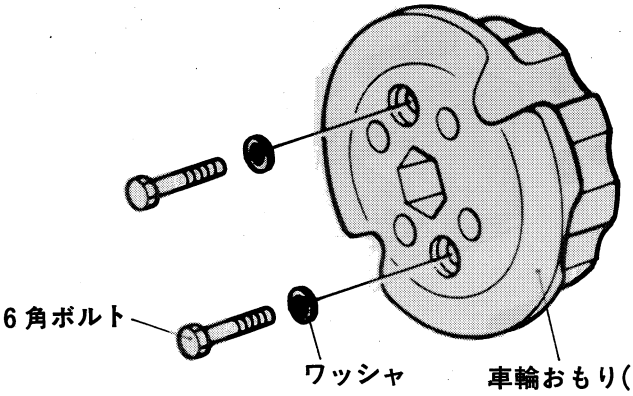
●エキステンション パイプ シャフト

車輪の取付け巾を広げる時に使用します。



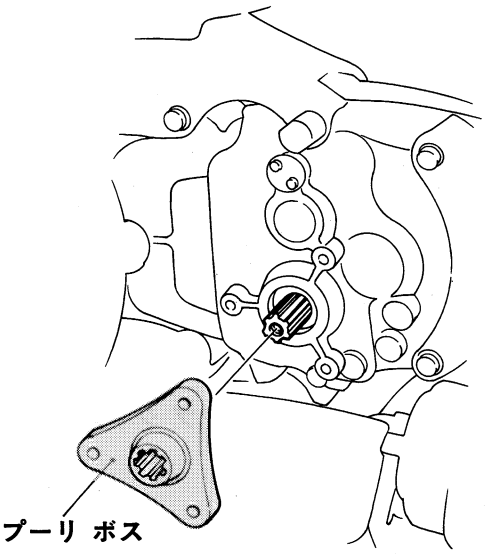
●車輪おもり(ホイール ウエイト)

けん引作業のときに本機重量の増減に使用します。



●動力取出し用プーリ ボス

動力取出軸を使用するときに使用します。



故障のときは

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがティラーを長持ちさせる秘けつです。

始動しない時は次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか？
- エンジン オイルは注入口、口元までありますか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはウエスで完全にふきとってから行なってください。

プラグを取外し、プラグ キャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ（感電を避けるためにプラグ キャップ以外には触れないでください。）、エンジン スイッチを〝運転〟の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意 ・この点検は風通しのよい場所で行なってください。

- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

主クラッチ、操向クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう。

- クラッチ ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか？

～～～～～～～～少し時間をおいて
もう一度確めましょう～～～～～～～～

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけ下さい。

主　要　諸　元

型　　式		F800
区　　分		F800K
機体寸法	全　長(mm)	1,780
	全　幅(mm)	920（バックミラー～ハンドル）
	全　高(mm)	1,170
	輪　距(mm)	230～690
重　量(kg)		184(ホイールウェイト、フロントウェイト付) 118(ホイールウェイト、フロントウェイトなし)
ハンドル幅(mm)		635
エンジン	名　称	ホンダG300
	形　式	空冷4サイクル1気筒立形ガソリン
	総排気量(cc)	272
	出力／回転速度(PS/rpm)	5.3/1,800(最大7.0/2,000)
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量(ℓ)	4.3
	点火方式	無接点マグネット点火
	始動方式	リコイルスターター
タイヤ		4.00−9　2PR
主クラッチ方式		ベルトテンション
制動方式		内部拡張式(駐車ブレーキ)
変速段数	前　進	6段(ベルト掛け替え)
	後　進	2段(ベルト掛け替え)
PTO回転速度(rpm)		低速：900　高速：1,500
サイドクラッチ		爪噛合式
安全鑑定適合番号		302017
型式認定番号		農1154

メ　　モ

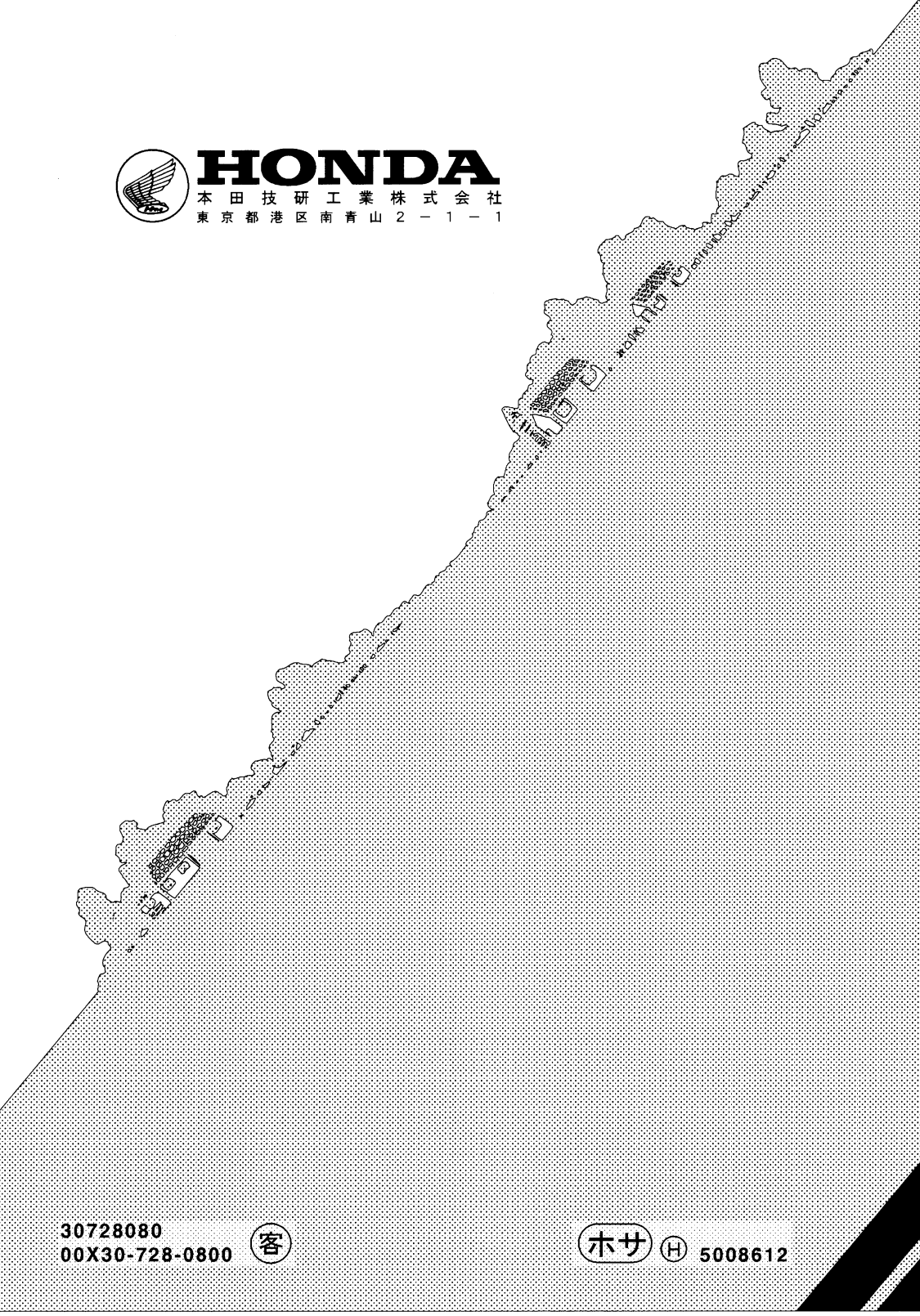
メ　　モ

メ　　モ

メ　　モ

メ　　モ

メ　モ



HONDA

本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

30728080
00X30-728-0800 客

ホサ Ⓗ 5008612